

様

経管栄養実施マニュアル



大垣市民病院

【 _____様の経管栄養法について 】

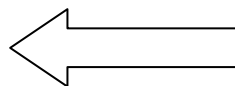
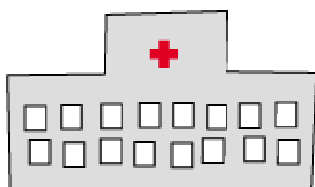
《基本事項について》

1. 注入方法は、（☐鼻から ☐胃ろう ☐腸ろう）です。
2. カテーテルのサイズは_____で、次回交換予定は_____年 月 日頃です。
3. 注入時の患者様の体位は_____です。
4. 使用栄養剤は_____で、1日の必要カロリー量は_____kcal、1日の必要水分量は_____mlです。

【注入メニュー】

開始時間	内容	量	所要時間	薬の有無	備考
	食事				
	水分				
	食事				
	水分				
	食事				
	水分				

- * カテーテルの交換は、当院または交換をして頂ける地域の医療機関などで受けてください。地域のかかりつけ医で交換不可の場合は、「大垣市民病院よろず相談センター地域連携部門」を通じて、カテーテル交換受診の予約を取って頂いてください。



地域連携システムによる医療交換の受診予約
(FAX)

【鼻からの経管栄養の場合】

I. 必要物品

1. 栄養剤・薬（次回受診日までの分をお渡しします。）栄養パック・カテーテル用注射器（各2個ずつお渡しします。）（図1）
2. 聴診器（患者様で購入して頂きます）
3. 微温湯又はお茶、トレイまたはお盆、薬をとかすためのカップ、ミルトン、バケツ（つけおき消毒をするためのものです）



図1

II. 方法

1. 処置の前には必ず手を石鹸と流水で洗いましょう。
2. 必要物品（栄養パック・カテーテル用注射器）・薬をトレイまたはお盆の上で準備します（図2）。 微温湯又はお茶も準備します。



図2

3. 栄養剤は温めず、室温保存の場合はそのまま使用します。
4. 栄養パックのクレンメを閉じます。栄養剤を栄養パックに入れて、点滴筒を指でつぶし、栄養剤を1/3程度ためます。クレンメを開きチューブの先まで栄養剤を満たし空気を抜きクレンメを閉じます。（図3）



図 3

5. 点滴棒に栄養パックを掛ける。
6. 患者様を指示の体位にします。膝の下に枕などを入れて、ずれを予防し体の位置を整えます。
7. 鼻に入っているカテーテルが印の所まで入っているか、固定のテープは緩んでいないか確認しましょう。(図4)

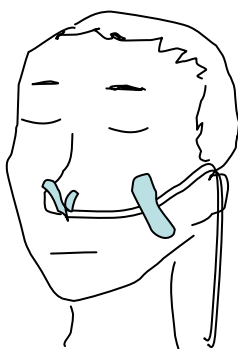


図 4

8. カテーテル用注射器を鼻カテーテルに接続し、聴診器を胃の上あたりに置き、空気を 5ml 程入れます。ゴボゴボと音がするか確認して下さい。又は軽く吸引し、透明な胃液状のものや栄養剤と同じ性状のものが吸引できるか確認します。
9. 栄養パックを鼻カテーテルに接続します。クレンメを開放し、栄養剤を注入します。(1秒1滴程度)

—お薬がある場合の注入方法について—

10. 栄養剤が入ったら、栄養パックのクレンメを1回止めておきます。
11. お薬を鼻カテーテルから注入します。お薬はカップに 20ml 程度の微温湯でしっ

かり溶かし、注射器で注入します。確実に溶けていないとカテーテルの詰まりの原因となります。また栄養剤と一緒に注入すると混ざって固まってしまい、これも詰まりの原因になりますので、気をつけましょう。

12. お薬をカテーテルに残さないために、注入後注射器で 20～30ml の微温湯を勢いよく注入します。
13. 栄養剤が入ったら（お薬のある場合はお薬が入ったら）、カテーテルの中を洗浄するために微温湯又はお茶を指示量注入します。
14. 微温湯又はお茶の注入が終わったら、鼻カテーテルから栄養パックをはずし、鼻カテーテルのキャップをします。終了後 30 分～1 時間くらい上半身を起こしておきましょう。
15. 栄養パック・カテーテル用注射器は、食器用洗剤で洗浄し、ミルトン消毒液に 1 時間程浸し、その後水分をとり自然乾燥させてください。

—ミルトン消毒液の作り方—

割合：水道水 1000ml に対して、ミルトン 10ml

Ⅲ. 注意事項

1. 栄養剤は添付文書に準じて使用して下さい。
2. 注入前の吸引で血液様、緑色のものが引けたときは、直ちに訪問看護師か主治医にご連絡ください。
3. クレンメを開放しても注入できない場合や、途中で流れなくなった場合はカテーテルが栄養剤や薬などで詰まっていることがあります。微温湯 20ml 程度を注射器で注入してみましょう。それでも通らない時や、鼻カテーテルが抜けてし

まったときは、訪問看護師か主治医にご連絡ください。

4. 栄養剤注入中・注入後に、嘔吐・咳き込みなど異常があったときは直ちに中止してください。誤飲を防ぐ為、体と顔を横向きにしてください。
5. 腹痛を訴える時は、栄養剤が冷たくないか、注入速度が速くないかなど確認しましょう。
6. 便秘になった場合、長く便が出ないとお腹が張ったり、吐いたりする原因にもなりますので、水分の量を調節したり、時計回りにお腹のマッサージをしてみてください。どうしても出ない場合は、主治医の先生に相談をしてお薬等での排便の調整をしてもらいましょう。
7. 口から食べる事のできない方も、口腔内の清潔は大切です。起床時や就寝時には歯磨きや湿らせたガーゼによる口腔清拭を行ってください
8. カテーテルの定期交換は訪問看護師や主治医が行います

<メモ>

I. 必要物品

1. 栄養剤・薬（次回受診日までの分をお渡しします。）栄養パック・カテーテル用注射器（各2個ずつお渡しします。）（図1）
2. 微温湯又はお茶、トレイまたはお盆、薬をとかすためのカップ、ミルトン、バケツ（つけおき消毒をするためのものです）



図1

II. 方法

1. 処置の前には必ず手を石鹸と流水で洗いましょう。
2. 必要物品（栄養パック・カテーテル用注射器）・薬をトレイまたはお盆の上で準備します。微温湯又はお茶も準備します。（図2）



図2

3. 栄養剤は温めず、室温保存の場合はそのまま使用します。
4. 栄養パックのクレンメを閉じます。栄養剤を栄養パックに入れて、点滴筒を指でつぶし、栄養剤を1/3程度ためます。クレンメを開きチューブの先まで栄養剤を満たし空気を抜きクレンメを閉じます。（図3）



図3

5. 患者様を指示の体位にします。膝の下に枕などを入れて、ずれを予防し体の位置を整えます。

6. 点滴棒に栄養パックを掛けます。

7. 胃ろうカテーテルのキャップを開け、栄養パックを接続します。(図4)。

クレンメを開放し、栄養剤を注入して下さい。(1秒1滴)



図4

—お薬がある場合の注入方法について—

8. 栄養剤が入ったら、栄養パックのクレンメを1回止めておきます。

9. お薬を胃ろうカテーテルから注入します。お薬はカップに20ml程度の微温湯でしっかり溶かし、注射器で注入します。確実に溶けていないとカテーテルの詰まりの原因となります。また栄養剤と一緒に注入すると混ざって固まってしまう、これも詰まりの原因になりますので、気をつけましょう。

10. お薬をカテーテルに残さないために、注入後注射器で20~30mlの微温湯を勢いよく注入します。しっかり流しておくことが、詰まりを予防するポイントです。

11. 栄養剤が入ったら（お薬のある場合はお薬が入ったら）、カテーテルの中を洗浄するために微温湯又はお茶を指示量注入します。

12. 微温湯又はお茶の注入が終わったら、胃ろうカテーテルからチューブをはずし、
胃ろうカテーテルのキャップをします。終了後 30 分～1 時間くらい上半身を起
こしておきましょう。
13. 栄養パック・カテーテル用注射器は、食器用洗剤で洗浄し、ミルトン消毒液に 1
時間程浸し、その後水分をとり自然乾燥させてください。

—ミルトン消毒液の作り方—

割合：水道水 1000ml に対して、ミルトン 10ml

Ⅲ. 胃ろうのお手入れ方法

—準備する物—

綿棒・拭くためのガーゼ・人肌程度のお湯・必要時は石鹼

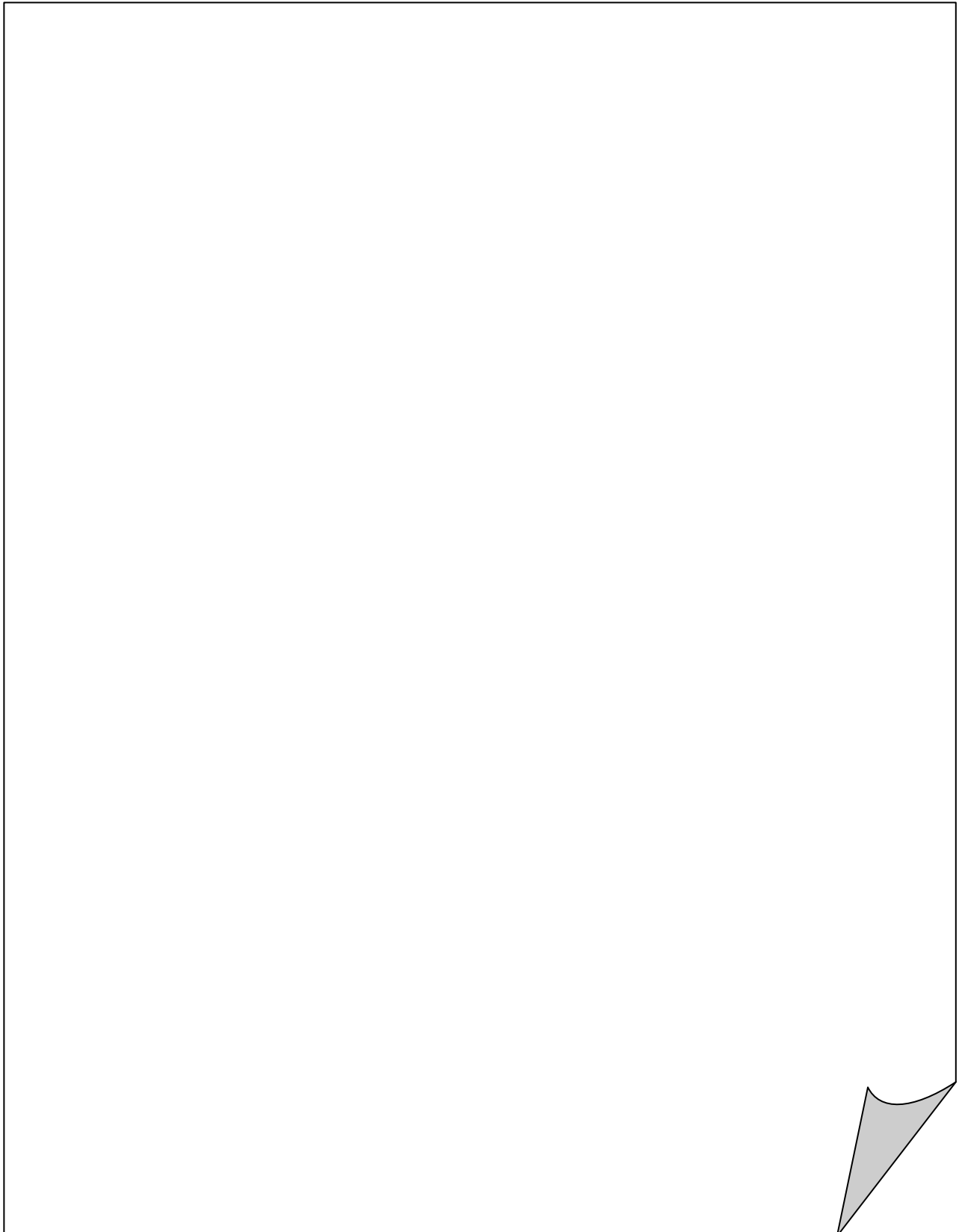
1. 胃ろうの周りをお湯でぬらした綿棒又はガーゼできれいに拭きましょう。取れ
ない汚れは、石鹼をつけて拭くときれいになります。石鹼使用後は、よく拭き
とってください。
2. お風呂に入る時は、そのままの状態ですぐに入ってよく洗いましょう。
3. 汚れをきれいにした後、水分を拭きとり乾燥させましょう。
4. 1 日 1 回は胃ろうの周囲を観察します。皮膚のただれや赤くなっていないか、
はれていないか、出血していないか等を見ましょう。
5. 胃ろうカテーテルが胃の中で、自由に動くようにしておくために、1 日 1 回は
2～3 回クルクルと回すようにしましょう。

IV. 注意事項

1. 栄養剤は添付文書に準じて使用して下さい。
2. 注入前の吸引で血液様、緑色のものが引けたときは、直ちに訪問看護師か主治医にご連絡ください。
3. クレンメを開放しても注入できない場合や、途中で流れなくなった場合は胃ろうカテーテルが栄養剤や薬などで詰まっていることがあります。微温湯 20ml 程度を注射器で注入してみましょう。それでも通らない時は、訪問看護師か主治医にご連絡ください。
4. 栄養剤注入中・注入後に、嘔吐・咳き込みなど異常があったときは直ちに中止して、誤飲を防ぐ為体と顔を横向きにして、口の中にある痰や吐物を取り除いてください。注入の時の体位や、速度に気をつけましょう。
5. 腹痛を訴える時は、栄養剤が冷たくないか、注入速度が速くないかなど確認してください。また、下痢になった場合はいつもより 1 時間程長めに、ゆっくりと注入してみましょう。下痢が 3 日以上続くようなら、訪問看護師か主治医にご連絡ください。
6. 便秘になった場合、長く便が出ないとお腹が張ったり、吐いたりする原因にもなりますので、水分の量を調節したり、時計回りにお腹のマッサージをしてみてください。どうしても出ない場合は、主治医の先生に相談をしてお薬等での排便の調整をしてもらいましょう。
7. 胃ろうカテーテルが抜けてしまったときは、直ちに訪問看護師か医師に連絡してください。また、胃ろうの周囲が出血したり、ジクジクしているときも訪問看護師か主治医にご相談ください。

8. 口から食べる事のできない方も、口腔内の清潔は大切です。起床時や就寝時には歯磨きや湿らせたガーゼによる口腔清拭を行ってください。
9. 胃ろうカテーテルの交換は約6ヶ月に1回 医師が行います。

<メモ>

A large rectangular box with a thin black border, intended for handwritten notes. The bottom right corner of the box is folded over, creating a triangular flap that is shaded light gray.